

金沢発！未来のがん研究者を育む「がん克服プロジェクト」



金沢大学がん進展制御研究所

プロジェクト実行委員長から一言



平尾敦

がん進展制御研究所／ナノ生命科学研究所教授

研究には「出会い」がとても大事だと思います。私は高校生時代、先に登場した「研究所に訪ねてきた高校生」とは対照的に、将来のビジョンがあるわけでもなくポーっと過ごしていました。

（大きな声では言えませんが）とりあえず安定的な職業というイメージで医学部進学を決めるような始末で、今の高校生の意識の高さには感心します。

私にとっては、大学生の時に「メンクス（キンキー・ヘア）病」という変わった名前の病気の研究している小児科の先生との偶然の「出会い」、これが研究を知るきっかけとなりました。

メンクス病は銅の腸管での吸収障害により、銅欠乏障害をきたすX染色体劣性の遺伝性疾患で、放置すると乳児期以降に重篤な中枢神経障害を示します。私は先生の指導の下、ラットからミトコンドリアを抽出して銅濃度を測定するというような実験の手伝い、得られたデータの学会発表を経験させていただきました。なるほど、病気のメカニズムを知るのにこんなふうの実験をするんだと、基礎研究に大変興味を持ちました。

大学を卒業した後、小児科医となり白血病の子供さんの診療に携わったこと、その当時、新しい治療法としての「末梢血造血幹細胞移植」の確立に情熱的に取り組んでいた先生たちとの「出会い」が、本格的に研究の道に進んだきっかけです。

今回、本プロジェクトを実現させ、高校生の皆さんに「何か特別な出会い」の場を提供できたら、と思います。よろしくお願いいたします。